

顕彰状

藤田浩之氏は、1966年7月27日に奈良県に生まれた。1987年4月に早稲田大学理工学部に入學、在學中にカリフォルニア大学サンディエゴ校に短期留學したことが契機となり、米国の大学への進學を志すようになった。1988年に渡米し、1992年にイリノイ州のマンマスカレッジを卒業、数学・物理学の學士号を取得した。さらに、1992年にはオハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学の博士課程に入學し、ライフワークとなるMRI技術開発の分野に出会った。

1998年に同大学で物理学の博士号を取得後、General Electricなどの米国企業での勤務を経て、2006年にMRIの信号送受信に関わる技術開発・デバイス製造を手がけるクオリティー・エレクトロダイナミクス（QED）社をオハイオ州で創業した。同社は、MRIラジオ周波数送受信コイル技術開発と製造におけるリーディング・カンパニーへと成長し、キヤノンによる買収にともない、藤田氏は2019年にキヤノンメディカルシステムズ株式会社のCT-MR事業統括部最高技術責任者（CTO）に就任し、また2022年からはCanon Healthcare USA, INC. 会長を兼任するなど、長年にわたり、医療機器開発の分野で最先端技術の開発を牽引している。

藤田氏は、経営者として数多く表彰されている。2009年にはQED社が米フォーブス誌の「America's Most Promising Top 20 Companies」に選出され、2010年に藤田氏はアーネスト・ヤング起業家大賞を受賞、さらに、米国商務省から2013年に大統領「E-Award」、2019年には大統領「E-Star Award」をQED社が受賞し、米国の輸出拡大への貢献を評価されている。2012年1月には、米国大統領一般教書演説の場に、オバマ大統領から、全米から選出された21名の賓客として大統領夫人貴賓席に招待される栄誉を受け、2013年から2017年まで米国商務長官製造業顧問を務めるなど、米国社会でもその経営手腕が広く認められている。

藤田氏は、経営者として、第二の故郷であるオハイオ州の経済発展に大きく貢献するのみならず、クリーブランドクリニック・ヒルクレスト病院理事長、同メンター病院理事長、クリーブランドクリニック・オハイオ地域病院執行理事、クリーブランド財団理事、クリーブランド商工会議所理事、クリーブランド管弦楽団理事、クリーブランド国際問題評議会理事などを務め、医療、教育、文化、国際交流など多岐にわたる分野で地域の発展にも尽力している。

経営者としての地位を確立しながら、藤田氏は産学連携や高等教育の発展にも力を注いでいる。ケースウェスタンリザーブ大学医学部放射線学科や理学部物理学科、オーストラリアのクイーンズランド大学情報技術電気工学部で非常勤の教授として後進の育成に尽力し、ケースウェスタンリザーブ大学では多くの諮問委員やInamori International Center for Ethnicity and Excellenceの顧問理事を務め、大学運営に貢献している。特に、2016年に全米最大規模かつトップクラスの公立大学のひとつであるオハイオ州立大学の理事となり、2022年から2024年までは理事長に任命されて、同大学のガバナンスに手腕を発揮し、また本学とオハイオ州立大学のパートナーシップの強化に尽力したことは特筆すべきである。さらに、2020年には沖縄科学技術大学院大学（OIST）理事に任命され、日米両国で高等教育の発展に重要な役割を果たしている。

2016年から米国ワシントン D.C.に本部を置く教育的非営利団体である米日カウンシルの評議員を務めており、米国およびオハイオ州での活躍を評価され、2018年に日本政府より初代在クリーブランド名誉領事に任命されるなど、民間外交の分野でも精力的に活動し、日米の友好関係の増進に貢献している。また、羽田空港の運営会社である日本空港ビルデング株式会社の顧問を務めるなど、日本経済界においても重要な役割を果たしている。

本学から高い志を持って米国に渡り、研究者として培った科学技術の知見を経営者として社会に広く還元し、地元オハイオ州のみならず米国社会全体の発展に献身的に貢献するとともに、故郷である日本のより良い未来や米国との良好な関係を願い、行動する姿は、本学が育成せんとする「世界人類のために貢献するグローバルリーダー」の理想像を体現するものであり、本学学生のみならず多くの日本の青少年の模範といえる。したがって、藤田氏に名誉博士の称号を贈呈することは誠に時宜にかなっていると言える。

ここに早稲田大学は、藤田浩之氏に

名誉博士（Honorary Doctor of Science）の学位を贈ることとした。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)